

令和6年度 第1回体力向上ステップアップミーティング報告

開催期間 令和6年6月14日(金)、21日(金)

場 所 五條市上野公園総合体育館シダーアリーナ、ジェイテクトアリーナ奈良

内 容 講義・実技「楽しく身に付くゴール型の授業づくり」

講師 大学法人立命館立命館大学 教授 大友智 氏

講義・実技「楽しく身に付くゴール型の授業づくり」

教材実践

- 1 ゴール型の教材を、班でやってみよう/選んでやってみよう
- 2 ゴール型の教材を、班でやってみよう/工夫してやってみよう
- 3 ゴール型の教材を、班でやってみよう/ゲームをやってみよう

授業づくり

授業づくりのキーワードを、考えてみよう

単元計画

- 1 単元計画を、グループで作ってみよう
- 2 単元計画を、全体に紹介し、振り返ってみよう

【参加者アンケートより】

○体育主任が一年目で、試行錯誤している中で授業づくりのヒントになりました。自分たちが体を動かすことで楽しさや子どもたちならこうすればよいのかと考えることができました。

○とても分かりやすく、とても楽しい時間でした。なるほどと思うことが多々あり、これからの授業に活かしていきたいことがたくさんあったので、自分だけではなく、自校の先生方にも伝えていければと思います。

○授業で使える色々な情報を得ることができました。また、講師の先生や参加した先生方がより良い研修にしようと取り組んでいたのが楽しみながら学ぶことができました。

○実技、講義、動画を通して教えて頂いたのが、とても分かりやすかったです。1つの動きに対して、様々な負荷のかけ方があり、各学年(低・中・高)に応用できるということを具体的に教わることができたのがとてもありがたかったです。いつもは、どこかの学年をイメージして講義を受け、そのイメージから、指導要領などを参考にしつつ、講義で出てきた学年以外を再イメージしていました。さらに実技もできたのでよかったです。

○ゴール型の競技は専門性も高く、練習量や基礎能力が及ばないと感じることが多いですが、本講義を通して、児童が夢中になって取り組めるゲーム性と教師側のねらいの明確さが運動量と基礎能力の向上に大きく作用すると感じました。

○下位教材では、少し条件を変えたり、ねらいをつけたりするだけで様々な学年で応用できることを他校の先生の意見と一緒に考えることで教材について深めることができました。

○同じ教材であっても、カテゴリーや心身の発達に配慮したうえで、課題を置き換え工夫するだけで、いろいろな場面で利用していけるということに気付くことができ、とても有意義な研修であったと感じています。

○ただ実技をするのではなく、グループが打ち解けやすいようにアイスブレイクなどを取り入れていただき、活気づいた実技活動ができて良かったです。いろいろ工夫することで、子どもたちの意欲は高めれることを改めて感じました。もっともっと、子ども目線になりながら子どもが自信と達成感につながるような活動をしていきたいと思っています。

○ゴール型の指導について、教師自身が実践しながら研修できたため、どのような意図や効果がある活動なのかとてもわかりやすく理解できました。自校での研修でも、実際にやってみるというワークショップ型を取り入れることも検討していきたいと思いました。やってみるからこそ、児童がどこでつまずき、どのような声掛けや配慮が必要となるのかがよく分かったと思いました。ドリルゲームやタスクゲームについてもたくさんの教材を提示いただいたので、自校に持ち帰り活用していきたいと感じました。

○今回の研修では、ゴール型の指導方法について特に理解を深めることができました。シュートの練習をひとつとっても発達段階や目指す力によって多くの運動があり、場面に応じて設定しやすいものが多くありました。ただ、思い付きで実施してしまうとせっかくの運動の効果が薄れてしまうため、今回のように単元計画をきちんと練り、児童の実態や目指す姿に合った運動を選び取っていくことが重要であると感じました。

○校種間での交流がほぼない中、今回の研修では、校種の違う先生方の雰囲気を知ることができ、また小学校6年間での学びがどのようなものかということの一端を知ることができました。実際に体を動かすことで、自身が指導をするために、よりイメージを膨らませることができました。

○私は中学校所属ですが、中学生が行っても楽しくわかりやすい物ばかりでした。今後の授業に生かしていきたいと思います。

参加者内訳

